

# 西アフリカにおけるイスラ ムの かり (1/3) : ガ ナ帝国

[:集者のおすすめ](#)

明:

サハラ以南の西アフリカ地域において、いかにイスラ ムが かり、 大な文明が かれ、 地民を多神教から唯一神への崇 へと いたかについて。第一部: イスラ ムの西アフリカ到 、そしてガ ナにおけるイスラ ム帝国の 史。

目:[事イスラ ムの 史](#)

より: A ラフマ ン I ドイ教授

📅6 Dec 2011

集日 16 Oct 2021



ムスリムの地理学者や 史学者たちは、アフリカにおけるムスリムの人々や 政者たちについての卓越した を残しています。それらにはアル=ハワ ルズィミ 、イブン ムナッバフ、アル=マスウ ディ 、アル=バクリ 、アブル=フィダ 、ヤ ク ト、イブン バトゥ タ、イブン ハルドウ ン、イブン ファドルツラ アル=ウマリ 、マフム ド アル=カ ティ 、イブン アル=ムフタル、アブドッラフマ ン アッ=サァディ などが含まれます。イスラ ムは西 8世 にサバンナ地 に到 し、それと共に西アフリカの 史が され始めました。イスラ ムは早ければ西 850年に、テク ル王国のジャオゴ族によって受け入れられました。彼らはイスラ ムを受け入れた最初のアフリカ 人でした。交易は新たな物 的文化をもたらし、それと共に 字能\力も がったため、知的 展を遂げたのです。

著名なアラブ人史家やアフリカ人学者たちは、ガナ、マリ、ソングアイ、カネム・ボルヌなどの帝国について述べています。彼らはガナ帝国の南へとつながるシジルマサからアウダゴストのタガザ、またシジルマサからガオのトゥアト、またはトンプクトゥといった、アフリカの有名な交易ルートについて述べています。アル＝バクリは、ガナが11世紀にはすでに高度な発展を遂げ、西的にも豊かな国だったと述べています。また13世紀のマリにおけるイスラムの影響、そしてその名声がスーダン、北アフリカ、果てにはヨーロッパにまでいたったマンサ・ムサによる支配についても述べています。

## 西アフリカにおけるイスラムの広がり

イスラムは西8世紀にサバンナ地に到達し、それと共に西アフリカにおける歴史の転機が始まりました。8世紀の初めに、ムスリムのアラブ人史家が西アフリカの歴史を付け始めたのです。著名な学者であるイブン・ムナッバフは、西738年には既に歴史を始めており、西947年にはアル＝マスウディがそれに続きました。イスラムがサバンナ地に広がるのと同じように、北アフリカからの商売の結びつきも立し出しました。また、交易は物的文化の新たな要素をもたらし、それに伴った文字能力の普及と共に知的発展もみせ、それゆえにスーダンの一部はその何世紀にも渡って有名となった程でした。セネガル岸に位置するテクル王国では、支配であるジャオゴ王朝により、西850年にイスラムが受け入れ始められました。この王朝は、最初にイスラムを受け入れたアフリカ人たちによるものでした。

こういった理由により、ムスリムのアラブ人史家たちは、テクル王国（ビラドゥ＝テクル）を、「ムスリムの地」として言及しています。ラビスの息子、ワルジャビはテクル最初の治者であり、彼の治によってテクルにおけるイスラムは立され、イスラム法が施行されるようになりました。ムラビト朝のアル＝ムラビトゥンによってテクルが攻められた1042年には、その地域におけるイスラムの影響はとても深いものでした。アル＝イドリシは1511年、テクルについて「安全かつ平和で、のどかである」と述べています。テクルの首都も同じテクルと呼ばれ、商売の拠点として栄えました。商人たちはモロッコから毛皮を商用として持ち込み、その産物として金やビズなどを輸出していました。

この地域はアラブ人 史家により、ビル ドル＝ス ダ ン（人の地）として知られていたため、多くの 史的 料が存在しています。中世において建国された有名な 帝国には、在も知られるガ ナ、マリ、ソ\ンガイ、カネム ボルヌがあります。アル＝バクリ 、アル＝マスウ ディ 、イブン バトゥ タ、イブン ハルドウ ンなどのアラブ人 史家たちはこれらの土地の 光の 代を き していますが、 地の学者による著作も存在しています。例えば、アッ＝サァディ によるタ リ フ アッ＝ス ダ ン（ス ダ ンの 史）、またムハンマド アル＝カ ティ によるタ リ フ アル＝ファッタ シなどが残されています。

また、そこにはいくつかの有名な交易路が存在していました。ガ ナ帝国へとつながるシジルマサから（アウダゴストの）タガザに くもの、そしてシジルマサからガオのトゥアト、さらにトンブクトゥに くものです。また、在のナイジェリアとトリポリをフェズ 由でつなぐもの、そしてガダメス 由でチュニジアとナイジェリアをつなぐものなども存在しました。これらの交易路は、上 のすべての街を交易の中心地として、またイスラ ム学 文明の地として有名にしました。以下では に、西ス ダ ンの 帝国におけるイスラ ムの 展について ていきましょう。

## ガ ナ帝国におけるイスラ ム

ムスリム地理学者であるアル＝バクリ は、ガ ナの初期ソ\ニンケ帝国についての情 を提供しています。彼の著 、キタ ブ フィ マサ リク ワル＝ママ リク（王国と 路の ）では、108年のガ ナの高度な 展について されています。そこは 的にも繁 した国だったのです。国王はムスリムの通 者を雇っており、大臣や 官の大半もムスリムでした。ムスリムの 大臣はアラビア で を付ける程に学 があり、国王の代理として他の 政者たちとやり取りも交わしました。“また、彼らはムスリムであることから、イスラ ム世界というより大きな政治に携わっており、それによって国 の 立を可能\としたのです。”

アル＝バクリ は11世 のガ ナにおけるイスラ ムの概要として、次のように述べています：

ガ ナ市は平地に位置し、2つの街によって成り立っており、そのうちの1つの大きな街にはムスリムが居住し、12のモスクがあり、そのうちの1つでは金曜合同礼 が行われて

いた。それぞれのモスクにはイマム、ムアッズィン（アザンを行う者）、そして有でくクルアーン朗唱家がいた。街には大の法学者、威者、学者がいた。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/304>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。